

【一般質問】令和7年9月定例市議会

質問 順序	質問者	質問の要旨	具体的内容
1	安東 鉄男	<p>1. 小中学生の学力の現状と向上のための取り組みについて</p> <p>2. 白杵市パークゴルフ場オープン後1年の総括について</p>	<p>これまで、一般質問で小中学生の学力向上について、継続して質問し、具体的な取組や成果と課題の議論を深めてきたところである。</p> <p>学力向上は、現状に甘んじることなく、継続的に取り組むことが重要であり、前回の質問から1年が経過し、その間にも様々な取組が進んできたことと思う。</p> <p>また、本年6月には「白杵市公立学校のあり方に関する基本計画」が策定され、本市の学校の将来像が明確になってきた。その内容も含め、この度公開された「大分県学力定着状況調査」及び「全国学力・学習状況調査」の結果も踏まえ、以下の項目について、教育委員会の考えを伺いたい。</p> <p>(1) 白杵市の児童生徒の学力の現状分析について</p> <p>(2) 本市の子どもたちにどのような「力」をつけようとしているのか、また、そのための具体的な取組について</p> <p>昨年9月1日にオープンした、白杵市パークゴルフ場は、予想を上回る盛況で、市内外を問わず愛好家や市民の方々が来場し、プレーを楽しんでいただいている。</p> <p>また、7月からは開場時間を2時間前倒しし、午前7時から早朝プレーもできるようになり、こちらも好評を得ているものと推察する。</p> <p>オープンから1年を迎え、市としてこの1年の取り組みをどう総括しているのか。今後さらに、地域の活性化や市民の健康増進にどのように繋げていくのか、また、好調な集客をどのように維持発展させていくのか、市の考えを伺いたい。</p> <p>(1) オープン後1年間の運営状況について</p> <p>① 利用者数</p> <p>② 年会員数</p> <p>③ イベントや大会の開催状況</p> <p>④ 総括と今後に向けての取組み</p> <p>(2) 早朝開場について</p> <p>① 効果の検証について</p> <p>② 利用者からの反響について</p> <p>(3) 熱中症対策について</p>
2	平川 幸司	1. 住民自治について	<p>(1) 行政区について</p> <p>① 区長の役割について</p> <p>② 区長の現状と課題について</p> <p>③ 行政区統合の現状と今後の展開について</p> <p>(2) 地域振興協議会について</p> <p>① 各地域振興協議会の特徴、財源を含めた自主的な運営状況、及び他地域との相互連携について</p> <p>② 活動拠点における集落支援員の配置状況とその役割について</p> <p>③ 設立当初の目的の達成状況について</p> <p>④ 今後の方向性について</p>

【一般質問】令和7年9月定例市議会

質問 順序	質問者	質問の要旨	具体的内容
3	大塚 州章	1. 救急搬送体制等について 2. 白杵磨崖仏国宝指定30周年記念事業について	(1) 白杵市消防本部の救急搬送に関して、過去3年の状況とその傾向、課題についてお伺いします。 (2) 近年、緊急性が低い状況で救急要請が行われることが、社会的な問題となる場合があります。救急車の適切な利用をしてもらうため、実質的な有料化を行う自治体もありますが、白杵市の現状についてお伺いいたします。 (3) 白杵市消防本部において、近年、患者等搬送事業者を認定されたと思いますが、その理由と料金体系を含む利用方法と現状についてお伺いいたします。 (1) 本年度行われている国宝指定30周年記念事業について、文化財的見地からどのような内容の事業を考え、それについて文化・文化財課としてどのように考えているかお伺いします。 (2) 8月30日に行われたシンポジウムでは、美術史学的見地と保存科学的見地から講演が行われましたが、その内容について新たな見識などはあったかを伺います。 (3) 今回の事業を踏まえて、次の40周年に向けて更には100年先にも白杵磨崖仏の存在が輝き、白杵を導いて国宝としての意義が広く市内外はもとより国内外に更に認識されて、国宝白杵磨崖仏の文化財としてのファンを広めて行ければ良いのではと思いますが、今後の事業や活動についてお伺いします。
4	匹田 久美子	1. 小中学校における水泳の授業について 2. 本市の子育て支援について	(1) 市内小中学校の学校プールの現状について (2) 民間プールを利用した水泳指導について ① 今年度の実施方法や内容について(往復、指導、時間、人数、生徒の声など) ② 実績を踏まえ、民間プールの利点と課題をどのように捉えているのか。 (3) 水泳授業そのものの民間委託と、それに伴う学校プールの廃止について (1) 本市の保育の現状について (2) 「こども誰でも通園制度」について ① 「こども誰でも通園制度」の概要と意義 ② 制度の試行的な事業実施の状況 ③ 「一時預かり」保育サービスとの違い (3) 今後の子育て支援について

【一般質問】令和7年9月定例市議会

質問 順序	質問者	質問の要旨	具体的内容
5	芝田 英範	<p>1. 地域振興について</p> <p>2. 国指定天然記念物「風連鍾乳洞」100周年事業について</p>	<p>(1) 旧野津高校跡地の振興策について</p> <p>① 多世代交流館「のつてらす」の利用状況と今後の取り組みについて</p> <p>② 福祉実習棟の活用について</p> <p>③ かんしょ広域選果場施設の進捗状況について</p> <p>④ 進入路について</p> <p>野津町泊地区に大正15年2月に発見され、昭和2年4月に国の天然記念物に指定された日本一美しいと言われる「風連鍾乳洞」があります。来年が発見から100年になります。</p> <p>(1) 国指定天然記念物「風連鍾乳洞100周年事業」の取り組みについて</p>
6	奥田 富美子	<p>1. 白杵市立下南こども園について</p> <p>2. 耕作放棄地解消と農家の負担軽減を図る仕組みづくりについて</p> <p>3. 白杵港新フェリーターミナルについて</p>	<p>下南保育所の老朽化と白杵市立白杵幼稚園の廃園に伴い、令和2年4月、旧県立白杵商業高校跡地に下南こども園が建てられました。</p> <p>(1) 公立幼稚園で取り組んでいた、幼稚園教育をどのような形で引き継いでいるかお尋ねします。</p> <p>(2) 発達に特性のある園児への対応には十分な人員配置が必要です。下南こども園の現状について、お尋ねします。</p> <p>(3) 現場は限られた予算の中で運営しており発達に特性のある園児等の受け入れ等には人員が必要なため、独自予算をつける等の対応の必要があるように思いますが、白杵市の認識についてお尋ねします</p> <p>白杵市では高齢化や担い手不足により耕作放棄地が増加傾向にあります。 個人農家や新規就農者の高額な農機具の購入の負担を軽減し、「小規模でも始められる農業環境づくり」と「効率的な作業支援」が不可欠と考えます。 以下の点について、見解をおたずねします。</p> <p>(1) 農機具シェアリング制度(仮称)の導入について</p> <p>(2) 不要となった農機具を登録し、必要な農業者へ譲渡等し、農機具の有効活用を図る、いわゆる農機具バンクの設立について</p> <p>白杵港新フェリーターミナルが完成し、運用がスタートしています。現状と課題についてお尋ねします。</p> <p>(1) 平成26年度に県と共同事務局を設け、白杵港新埠頭利活用市民検討会等を開催し、その検討結果等を受け、白杵市は大分県に対して、「白杵港新埠頭の整備について」の要望書を提出しています。その要望書の内容と現在の反映状況について、お尋ねします。</p> <p>(2) 新フェリーターミナルの敷地入り口に「フェリー利用者以外立ち入り禁止」の看板が設置されています。市民の憩いの場所と考えると、この文言については再考の余地があると思われませんが、いかがでしょうか。</p> <p>(3) 子ども広場について、0歳～6歳の子どもを対象とした遊具が整備されていますが、対象年齢以外の子どもへの使用についての考え方をお尋ねします</p>

【一般質問】令和7年9月定例会市議会

質問 順序	質問者	質問の要旨	具体的内容
7	戸匹 映二	1. プレコンセプションケアの推進について 2. 家庭ごみでのリチウム蓄電池等の回収について	(1) プレコンセプションケアの取り組み目的と内容を伺います。 (2) こども家庭庁が「プレコンセプションケア推進5か年計画を策定し、今後5年間の集中的な取り組みとして、「①性や健康に関する正しい知識の普及と情報提供 ②プレコンセプションケアに関する一般相談支援の充実 ③医療機関等における専門的な相談支援の充実」の3点が掲げられていますが、白杵市としてその展開における課題認識を伺います。 (1) リチウム蓄電池等の回収の現状について ① 家庭ごみでのリチウムイオン電池及びリチウム蓄電池使用製品の回収方法と課題認識を伺います。 (2) 家庭ごみでのリチウム蓄電池等の回収に関する安全対策について ① リチウムイオン電池を使った身近な製品の周知と廃棄時における危険性等の注意喚起の強化が必要と考えますがいかがでしょうか。 ② 地域の資源ごみ回収ステーションでのリチウム蓄電池等の回収時の発火や延焼における安全対策の必要性についての認識を伺います。 ③ 白杵・野津庁舎内へのリチウム蓄電池等専用の回収ボックスの設置を行っていただきたいかがいかがでしょうか。
8	伊藤 淳	1. 重層的支援体制整備事業について 2. 緊急通報装置について	重層的支援体制整備事業については、令和6年3月定例会で、「地域振興協議会の協力も得ながら、地域の中で福祉的な課題を抱えている人に気づける人材を増やしていく取組を進めていきます。」と答弁がありました。そこでお尋ねします。 (1) 「福祉的な課題を抱えている人に気づける人材を増やしていく取組」とは具体的にどのような取組なのか。また、実際に行われた件数を教えて下さい。 (2) 「地域の中で福祉的な課題を抱えている人」への支援の内、当事者及び関係する地域住民への支援を継続的に行っている件数を教えて下さい。 (3) 本事業の現時点での課題と思われるものを教えて下さい 緊急通報装置については、一人暮らし高齢者や重度身体障がい者等の急病等の緊急時に迅速かつ適切な対応を図るために貸与されるものとされ、平成24年12月定例会で「対象者数3,064世帯」「設置台数約300台」とご答弁がありました。そこでお尋ねします。 (1) 本年度における対象者世帯数、設置済数及び実際に使用された昨年度の件数を教えて下さい。 (2) 機材の見直しなど検討されているか教えて下さい。

【一般質問】令和7年9月定例市議会

質問 順序	質問者	質問の要旨	具体的内容
9	甲斐 尊	1. 家庭ごみの処理対策について 2. 児童生徒への情報リテラシー教育について	(1) 新環境センター移行に向けた協議・調整等の対応について ① 新環境センターへの移行は、おおよそ20年ぶりとなるごみ処理体制の大幅な変更を伴うものと認識している。市民生活に深く関わるごみの分別や収集について、主に、何がどのように変わるのか伺う。 (2) ごみ出し困難者への対応について ① ごみ出しについては、基本的に各世帯の責任において行うべきものとするが、今後1人暮らし高齢者の増加が予測され、加齢や障がい等により、ごみステーションまでごみ出しが難しい、いわゆる「ごみ出し困難者」への対応が必要になると考える。新環境センター移行を機に市としてこの課題にどのように向き合うのか伺う。 (1) 昨今、スマートフォンやタブレット端末などのICT機器が広く普及し、本市の学校教育においても、タブレット端末や電子黒板を活用した授業が日常的に行われている。一方で小中学生がSNS等での誹謗中傷や不適切な投稿などにより、トラブルの被害者あるいは加害者となる事例も全国的に増加している。現状では、どのような情報リテラシー教育を行っているか伺う。
10	河野 巧	1. 白杵市役所白杵庁舎移転・建設について 2. 白杵市公立学校のあり方検討について 3. のつてらすについて	白杵市役所白杵庁舎は建設から50年が経過しています。庁舎については、平成26年度より白杵庁舎のあり方検討が行われ、その際には喫緊の課題と抜本的な課題を分けて整理された経緯を経て、耐震補強が実施されました。そこで以下のことについて伺います。 (1) 耐震補強後の検討課題について (2) 白杵庁舎建設の今後について 現在、白杵市公立学校のあり方検討委員会は継続して協議が行われていますが、統合対象校の関係者(地域)だけでなく、広く白杵市民への周知が必要だと考えることから、会議の内容、特に検討課題や決定事項について伺います。 (1) 通学距離や通学時間、通学方法についての検討課題や決定事項について (2) 統合先の選定理由及び地域住民への周知について (3) 公立学校のあり方検討の今後の課題について 旧県立野津高校の普通教室棟の再活用として、“子どもから高齢者まで幅広い世代が集まり楽しめる拠点施設”をめざし、先日、オープンから来場者数が2万人を突破した白杵市多世代交流館「のつてらす」について今後の展望及び課題を伺います。 (1) 来場者の推移と傾向について (2) 施設使用者の推移と傾向及び使用料について (3) 利用料の有料化について (4) 施設の雨漏り対策について (5) 今後の展望及び課題について

【一般質問】令和7年9月定例会市議会

質問 順序	質問者	質問の要旨	具体的内容
11	広田 精治	1. 同和対策事業について	<p>(1) 同和対策分べん助成金、小中学校入学支度金、同和対策進学奨励金などの6制度は旧同和地区関係者を特別扱いするもので、すべての市民に等しくあるべき行政サービスではない制度と考える。これらの制度について、令和7年6月定例会の答弁にあった「制度についての見直しの検討」、「年度内の改定」とは、制度の廃止も視野にいれたものかどうか、伺う。</p> <p>(2) 大分市は、令和7年5月に発表した内容によると、部落解放同盟に対して行ってきた人権に関する相談業務の委託、人権に関する講演会の内容・人権啓発のポスター内容・人権に関する研修計画など事業実施の際の事前相談とそれへの意向の聴取及び同盟発行紙誌の親睦会等による一括購入について中止する対応をとっている。本市も民間運動団体との関係、対応について見直しが求められると考えるが、見解を伺う。</p> <p>(3) 大分市は令和7年4月1日から、人権問題をより広く捉え、あらゆる人権問題の解決を充実させるために「人権・同和対策課」を「人権尊重推進課」に、「人権・同和教育課」を「人権教育推進課」に改名した。本市も「部落差別解消推進・人権啓発課」から「部落差別解消推進」を削除した課名にすべきと考えるが、見解を伺う。</p> <p>(4) 民間運動団体が毎年行う「行政交渉」には市長部局、教育委員会部局、消防部局にわたるほぼ全ての管理職が出席し、市長が要求書に対する回答書を提出、交渉が行われている。令和4年31名、5年36名、6年は39名の管理職が出席して対応している。これ程の人数は団体の要望に応じてのものか、市長の自発的なものか伺う。</p>
		2. 特別障害者手当のすべての受給対象者が取り残されない取組について	<p>(1) これまで令和3年6月定例会及び令和4年3月定例会で特別障害者手当制度の周知徹底の取組について質問したが、その後の福祉課と高齢者支援課の連携や介護施設への制度周知など受給資格対象者を一人も取り残さない取組に関して伺う。</p> <p>① 直近の介護保険の要介護4・5の認定者数とその内特別障害者手当受給者数。</p> <p>② 自宅のほか、対象となる入所施設・事業所を具体的に伺う。</p> <p>③ 過去における認定診断書発行実績のある市内医療機関の数の推移について。</p> <p>④ 前回の質問以降、これまでの本市の取組と成果、課題認識について</p>
		3. スフィア基準に基づく避難所運営について	<p>(1) スフィア基準とこれに沿った避難所対策について、本市の認識と対応、具体化について伺う。</p> <p>(2) 本年1月9日、内閣府が公表した本市の「災害用物資・機材等の備蓄状況に関する調査結果」について</p> <p>① 想定した災害の規模について</p> <p>② 数値の根拠について</p> <p>(3) 学校体育館など大規模避難所の冷暖房設備の現況について伺う。</p>